

## 平成28年度簡易型建設副産物実態調査質疑応答

No.	項目	質問内容	回答
1	対象工事について	調査対象工事はなにか。	公共発注工事で、資源有効利用促進法に定められた一定規模以上、平成28年4月から平成29年3月に完成した工事が調査対象です。 ※平成28年度 簡易型建設副産物実態調査 詳細説明(資料-2)【PDF】の p.1～p.3を参照
2	対象工事について	「資源有効利用促進法に定められた一定規模以上」とはなにか。	平成28年度 簡易型建設副産物実態調査 詳細説明(資料-2)【PDF】 p.2をご参照ください。
3	対象工事について	対象は、公共工事のみか。民間工事は回答しなくてよいということか。	そのとおりです。
4	対象工事について	平成28年4月から平成29年3月に完成した工事がなければ、データは提供しなくてよいのか。	そのとおりです。
5	対象工事について	対象工事がない場合の連絡は、どのように行えば良いのか。書式などはあるのか。	書式はございません。対象工事がない旨を上位機関にご連絡ください。
6	対象工事について	対象工事は、土砂の搬入もしくは搬出が1,000m <sup>3</sup> 以上とあるが、これは、現場内の切土や盛土による取扱土量が1,000m <sup>3</sup> 以上と考えてよいのか。	土砂の搬出が1,000m <sup>3</sup> 以上の場合は対象となりますが、現場内の切土や盛土による取扱土量が合計1,000m <sup>3</sup> でも、現場からの搬出がなければ対象外となります。
7	対象工事について	1,000m <sup>3</sup> の建設発生土を搬出し、現場外に仮置き後、再度現場に戻す工事は対象となるのか。	1,000m <sup>3</sup> 以上の搬出、もしくは搬入があれば対象工事となります。
8	対象工事について	複数年度の債務負担工事がある。自機関で毎年度実施している建設副産物実態調査では、年度を区切って調査しているが、今回の調査では債務負担工事は対象外となるのか。	通常の建設副産物実態調査では、債務負担工事は単年度に分割して調査しています。しかし、今回の簡易型調査では調査の煩雑さから単年度分割は依頼していません。なお、自機関で毎年度調査されているなど、提出が可能であれば、H28年度単年度分を提出をお願いします。
9	対象工事について	平成28年度対象工事は、工事の発注金額による条件はないとの認識で間違いはないか。	そのとおりです。 ※平成28年度 簡易型建設副産物実態調査 詳細説明(資料-2)【PDF】 p.1～p.3を参照

平成28年度簡易型建設副産物実態調査質疑応答

No.	項目	質問内容	回答
10	対象工事について	既に竣工した工事は調査対象か。	平成28年4月から平成29年3月に完成した工事が調査対象となります。既に完成した工事は、元請会社にご連絡し、調査協力をお願いします。
11	対象品目について	調査対象品目の搬入の説明で、「コンクリート及び鉄から成る建設資材」をU字溝との説明があったが、その他L型擁壁などのコンクリート二次製品も対象と考えてよいか。	そのとおりです。
12	対象品目について	土砂の搬出が1,000m <sup>3</sup> 以上ある工事で対象工事となった場合でも、全ての品目について調査を行うのか。	そのとおりです。 ※平成28年度 簡易型建設副産物実態調査 詳細説明(資料-2)【PDF】 p.6を参照
13	データ提出方法について	2つの受注者からデータを提出された場合、提出された発注者は2つのデータを上位機関に提出するのか、それとも1つにまとめて上位機関に提出するのか。	1つにまとめて上位機関に提出をお願いします。 ※平成28年度 簡易型建設副産物実態調査 詳細説明(資料-2)【PDF】 p.13を参照
14	データの入力について	回答は工事一件ごとに行うのか。	そのとおりです。
15	データの入力について	既に竣工した工事は、「実施」だけを入力すれば良いのか。「計画」も入力する必要があるのか。	「実施」だけの作成でかまいません。
16	データの入力について	建設廃棄物をm <sup>3</sup> で把握している。調査の単位であるトンへ換算するための係数は、現場ごとの状況を踏まえたものを利用しているが、問題ないか。	問題ありません。通常ご利用されている換算係数があれば、そちらをご利用ください。なお、換算係数がない場合は平成28年度 簡易型建設副産物実態調査 詳細説明(資料-2)【PDF】 p.18をご参照ください。
17	データの入力について	延べ床面積は四捨五入でよいか。	結構です。
18	データの入力について	延べ床面積は、実際施工した場所の面積か、それとも建物自体の面積か。	実際に施工した延床面積です。
19	データの入力について	建設発生土の現場内利用で、警告エラーとなる。どのように対応すればよいか。	現場内利用をおこなっている場合は、建設資材の利用及び建設副産物の発生の際に両方に入力が必要です。

## 平成28年度簡易型建設副産物実態調査質疑応答

No.	項目	質問内容	回答
20	データの入力について	建築発生土を、同一敷地内の別工事で利用した場合はどのように扱うべきか。	工事間利用の扱いになります。
21	データの入力について	副産物を中間処理施設に搬出する場合、中間処理を選択するのか、処理後の最終処分を選択するのか。	中間処理を選択してください。
22	データの入力について	1t未満が入力できない。	「1」と入力してください。
23	データの入力について	供給元場所・搬出先の入力セルが3つしかないが、4つ以上入力したいときはどうするのか。	3つまで入力していただき、左側の下向きの三角印を押してください。新たにセルが表示されます。
24	データの入力について	エラーがあると警告が出るが、どこが悪いかわからない。	着色のセルがございますので、そちらにカーソルを合わせて表示されるメッセージに応じて適宜ご対応ください。
25	データの入力について	登録作業を完了してしまうと、修正作業はできないのか。	登録済みデータの変更・削除で、修正作業ができます。
16	データチェックについて	県のとりまとめ担当が集まったデータを全てチェックすることは困難である。各部署でチェックされたものは、チェックしなくてもよいのか。	各部署や市町村でチェックしたデータを県のとりまとめ担当がチェックする必要はございません。
27	データチェックについて	受注者がCOBRISを利用しており、発注者がCOBRISに加入していない場合、COBRISに加入してからチェックすることもできるのか。	COBRISの登録料を払えば、チェックが可能です。COBRISを利用できない場合は、紙でのチェックをお願いします。
28	データチェックについて	CREDASで作成した内容について、提出ファイル作成後のcsvファイルでエラーチェックをすることはできないのか。	画面上でのチェック以外はできません。
29	データチェックについて	COBRISで回答する場合、受注者がCOBRISに登録すれば、改めてのデータ提出は不要とのことだが、発注者がCOBRISのデータをチェックした結果について報告などは必要あるのか。	発注者がチェックしたデータが登録されているものと考えていますので、報告は不要です。
30	CREDASのダウンロード	CREDASのダウンロード方法がわからない。	次のWebサイトをご参照ください。 <a href="http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/fukusanbutsu/credas/">http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/fukusanbutsu/credas/</a>
31	提出方法	CREDASを使って入力が完了したが、提出方法がわからない。	提出用ファイル作成の機能をご利用いただき、登録が完了した工事を選択のうえ圧縮ファイルを作成してください。そのファイルをメール添付等により送付してください。

平成28年度簡易型建設副産物実態調査質疑応答

No.	項目	質問内容	回答
32	提出方法	提出用ファイルを作成したがエクセルでない形で出てきた。これはエラーなのか。	圧縮ファイルを解凍するとCSVファイルの形で出てきます。エラーではございません。
33	提出方法	各部署からのデータを集約することになると思うが、CSVとLZHどちらのファイルをもらえばよいか。	LZHのファイルを受け取ってください。
34	提出期限について	締切はいつか。	第1回目が、平成28年12月9日です。第1回目は、平成28年4月から平成28年11月に完成した工事のデータをご提出ください。第2回目は、平成29年4月21日です。第2回目は、平成28年12月から平成29年3月に完成した工事のデータをご提出ください。なお、平成28年12月9日までに間に合わなかった平成28年4月から平成28年11月に完成した工事は、第2回目の提出期限である平成29年4月21日までにご提出ください。
35	提出期限について	なぜ締切が2回あるのか。	平成29年1月頃に速報値を集計しますので、ご協力をお願いいたします。
36	その他	回答についての問合せ先はどこか。	日本能率協会総合研究所まで問合せ願います。 TEL: 0120-550-156 Email: yu_nakamura@jmar.co.jp